

## QEの推計精度の確保・向上に向けて

令和元年6月14日  
国民経済計算部

### 1. QEの推計精度の確保・向上に向けた課題と検討の方向性

昨年3月22日に公表した「QEの推計精度の確保・向上に関する課題への対応について」(QE工程表)に沿って、以下の課題の検討に取り組む。なお、以下に掲げる課題は、昨年取組んだ共通推計項目の拡充等に比べ、実装に向けた難易度が高いことから、まずは基本的な課題を整理した上で、対応可能なものから順次導入することを目指すこととする。

#### (1) QE工程表への対応

##### ① 公的固定資本形成に関する代替的推計方法の検討

第Ⅲ期公的統計基本計画において、公的固定資本形成について、「建設総合統計」と国・地方等の決算書の比較検証を踏まえ、改善策を検討することとされている。この取組と並行して、代替的な推計方法の検討を行う。

⇒ 代替的な推計手法の検討を進める(今年度中～来年度半ば)

##### ② QEから年次推計への段階的接近の検討

現行推計においても、2次QEから第一次年次推計に至るまでの間に、追加的な基礎統計を取り込んで順次計数を改定していくことで、常に最新の計数を得るように設計されている。年次推計における改定幅を更に縮小させるため、年次推計を待たずに反映可能な基礎統計や推計方法について検討を行う。

⇒ 推計の詳細化、年次推計化した際の断層の影響等について課題を整理する(今年度中)。

⇒ 上記論点整理を踏まえ、具体的な対応可能性について検討を行う(来年度以降)。

##### ③ 基礎統計のデータ補正方法の検討

QEで使用する基礎統計は、年次推計の基礎統計に比してカバレッジが小さいなどの理由により、年次推計の基礎統計に対して一定の傾向を有している場合があり得る。このような場合、QE段階において、基礎統計のレベルで適切な補正を施すことにより、年次推計への改定幅を縮小させることができる可能性がある。家計消費や総固定資本形成などの主要な推

計項目について、基礎統計のクセを検証し、諸外国の取組も参考にしながら、補正方法の検討を行う。

- ⇒ 諸外国等における取組を調査する（今年度中）。
- ⇒ 我が国の統計環境への適用可能性や適用による改定幅の改善可能性について検討する（来年度以降）。

上記検討事項に加え、2018年度から検討を行っている項目について、改めて精査し、改善の余地があるかどうか検討する（今年度中～来年度半ば）

## **（２）その他基本計画における関連事項**

### **①法人企業統計調査の一部早期化の検討**

第Ⅲ期公的統計基本計画において、1次QE段階から法人企業統計調査を利用できるよう、今年度より試験調査が開始される。試験調査のデータの蓄積をみて、試験調査結果を反映したQE推計手法の検討を開始する。

## **2. 今後の進め方**

上記課題について検討を進め、可能なものについて、今年度内に国民経済計算体系的整備部会に検討状況の中間報告を行う。部会への報告を踏まえ、引き続き検討を進め、翌年度中の部会において、実装について結論を得る。

（以 上）